

## 第4学年 国語科学習指導案

### 1 単元名・教材名：きょうみをもったところを中心に しょうかいしよう-

「ウナギのなぞを追って」光村図書4年下

### 2 単元目標

◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)

◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)

○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表C(1)ウ)

○様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)

**言語活動**：科学読み物を読み、紹介する文章を書く。

### 3 単元について

#### (1)教材について

この教材文は、ウナギを題材に「ウナギの産卵場所はどこか」という謎を追い求めて調査を続けた研究者たちが、その場所をほぼ突き止めるに至るまでの道筋を描いた文章である。典型的な「初め・中・終わり」の構成となっている。食材としてのウナギについては、日頃よりスーパー等で目にするものであるが、本教材文を読むことにより、そのウナギが、実は産卵のために遠くマリアナの海まで回遊することに驚きを感じる。さらに、その産卵場所を突き止めるまでに、筆者である塚本勝巳氏の研究に対する情熱が感じられる表現も多い。そのため、子どもたちの読みの視点は研究者の側に立つものとウナギの側のものと大きく二つに分かれると思われる。驚きと感動をそれぞれの読みの視点を大切にしながら、意欲を持って要約するのに適した教材であるといえる。その教材文の価値を、子どもたちと共有しながら読み進めていきたい。

要約には、元の文章の構成や表現をそのまま生かして短くまとめるものと、自分の言葉で短くまとめるものがある。元の文章のどの部分を取り上げるかは、興味・関心によって違ってくる。本単元においては、子どもが興味をもつ内容として「ウナギの産卵場所の調査」「調査にかかった年月や苦労」「謎がだんだんに解けていく経緯」等が考えられる。例えば、「光村コミュニティ『わたしの授業』」においては、「ウナギの産卵場所の調査」に興味をもち、中心となる文を抜き出したとき、次頁のような要約が考えられると示されている。「ウナギの産卵場所の調査」について要約するために、「レプトセファルスが見つかった年月や場所」「レプトセファルスの体長」を抜き出してまとめるために、250字程度必要となっている。要約する際に文字数を制限することによって、大事な言葉を考え、必要な叙述だけを抜き出してまとめ

ようという姿勢が育成されると考える。

最初に、1967年、体長54ミリのレプトセファルスが台湾の近くで見つかった。そして、1991年、体長約10ミリメートルのレプトセファルスが北赤道海流の中で見つかった。そこで、1994年ごろ、大きな三つの海山が何かの役に立ち、さらに、新月のころに合わせていっせいにたまごを産んでいるのではないかと考えた。二つの予想にもとづいて調査し、2005年、マリアナ諸島の西にある海山付近で生後2日のレプトセファルスを見つけ、2009年、ついにウナギがたまごを産む場所にたどり着いた。

「光村コミュニティ『わたしの授業』」より抜粋

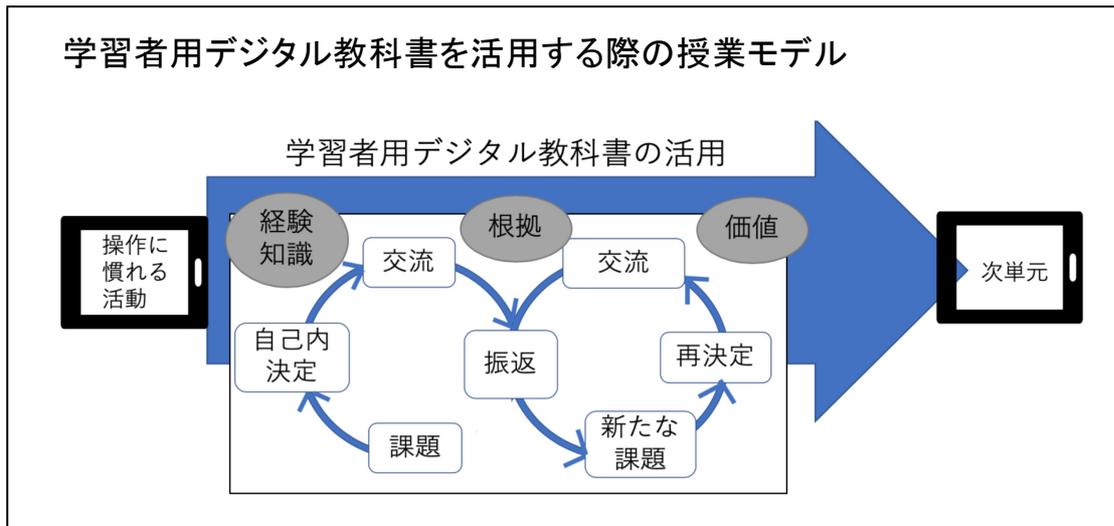
## (2) 指導について

これまでに子どもたちは、教材「アップとルーズで伝える」で、段落相互の関係や文章と写真との関係を捉え、筆者の考えを捉える学習を経験してきている。また「世界にほこる和紙」では、中心となる語や文を見つけて要約するという学習にも取り組んできている。

そこで、本單元においては「C 読むこと ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする言語活動」として「筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係を捉えながら科学読み物を読み、興味をもったところを中心に要約して友達に紹介する言語活動」を位置づけたいと考える。

この学習は、第5学年の筆者の説明の仕方や文章構成に着目して要旨を捉える教材「言葉の意味が分かること」の学習につながっていく。また、興味をもったところを中心に文章の内容を要約する学習は、子どもの今後の読書生活や気に入った本を紹介する活動に生かすことができると考える。

また、本單元では、学習者用デジタル教科書の活用によって、より自立的に、また対話的学ぶ子どもの育成をめざすことができると考えている。学習者用デジタル教科書の「本文抜き出し機能」は、教材文から言葉を自由に抜き出せるだけでなく、抜き出した表現の移動・削除を簡単に行うこともできる。子どもによって表現の効果を感じる表現、つまり抜き出す表現は異なる。また、まとめ方にも違いが表れるだろう。指導にあたっては同じ画面に揃えようとするのではなく、あくまで子ども自身が理解したり説明したりするためのツールとして使わせるようにしたい。それと同時に、自分の画面にこだわり続けるのではなく、対話を通して相手の意見に納得したときは相手の意見を取り入れ、積極的に自分の読み方を広げられるよう指導する。というのも、初め個人で作成した画面は不完全で未完成なものにならざるを得ない。ペア対話を通して個人の気づきが広がり、一斉の場面では教師が介入することによってそれぞれの読みの視点が整理されていく。そして再び個人作業に戻り、対話を通して得られた新たな気づきを手がかりにして自分の読みを再構成し、さらにペアや一斉での交流を行い互いの読みについて理解を深めるのである。学習者用デジタル教科書、特に「本文抜き出し機能（マイ黒板）」を用いた学習は、こうした個別・ペア・一斉のサイクルを活発に回していくことが重要である。具体的には「学習者用デジタル教科書を活用する際の授業モデル」〈図1〉を参照されたい。この考えに立ち、本單元において本文抜き出し画面を活用する第6時と第7時は、2時間連続で実施するよう設定している。



<図1：学習者用デジタル教科書を活用する際の授業モデル>

#### 4 指導計画（9時間扱い）

次	学習活動	デジタル教科書の活用例 【学：学習者】【指：指導者】
第一次 つかむ	<p>① 題名や日頃の経験を出し合う中で、ウナギについて関心を持ち、本文全体を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウナギ など おう＝不思議なことを解き明かす目標を追い求めている</li> <li>・大映しにされた教材文中の写真から読み取れることを交流、共有して、興味や関心を深める。</li> <li>・本文が「はじめ・中・終わり」で構成されていることを理解し、初発の感想をもつ。</li> </ul> <p>② 初発の感想をもとに、学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想を出し合うことで、それぞれ関心事が違うことに気づき、自分の関心事を確かなものにする。 何がウナギのなぞか？ ちっちゃい卵，大きな海，大変な年月，事実からの推測，筆者のウナギに対する関心の大きさ等</li> <li>・学習のゴールとして、興味・関心を中心に紹介文を書くという課題を設定する。また、紹介文を書くためには、文章を要約する力をつけることが大事であることを確認する。</li> </ul>	<p>【指】教材文中にある写真を大映しにして、気づきを共有する。</p> <p>【学】関心を持った言葉や文章に「黄色線」を引いておく。</p> <p>【学】「黄色線」をもとに感想を出し合い、それぞれの興味・関心を確認する。</p>

<p>第二次 深める</p>	<p>③ 「はじめ」と「終わり」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題提供と筆者の主張の大まかな捉え、「はじめ・中・終わり」の文章構成、写真の役割等を確認する。</li> <li>「今年もマリアナの海にやってきました。」という文が導入と終末に出てくる</li> <li>「中」の部分には具体的な調査内容</li> <li>・卵問題は「ほぼ」解決とあることから、まだ未解決なものもある。</li> <li>・「はじめ」と「終わり」の部分、本文抜き出し機能を使って整理する。</li> <li>短い言葉で抜き出しておくことと要約しやすいことから、カード化する際には、だんだんと短い文での抜き出しができるように、何度も試してみる。</li> </ul> <p>④ 「中」の部分で「いつ、どんなことが起こったのか」に着目して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時系列に事実の確認をする。</li> <li>年号、場所、レプトセファルス大きさ</li> </ul> <p>⑤ 「中」の部分の「ウナギがどこで産卵するか」問題をどのように解決していったのか、「事実」と「推論」を積み重ねた道筋を読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中1：大きさと海流、中2：2つの仮説（8、9には事実がない）に分かれる。</li> </ul> <p>⑥ ⑦自分の興味の中心に沿ってキーワードやキーセンテンスを抜き出し、カード化して整理しながら読みを深める。 *本時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・⑤までの学習をもとに、自分の興味・関心を中心にして、文章を再構成する。</li> <li>・文章を短くする方法として「他の言葉に言い換える」「短くまとめる」等を試してみる。</li> </ul> <p>⑧ 「もっと読もう」を読んで、要約した部分を確認し、紹介文として書き直す。</p>	<p>【学】「はじめ」と「終わり」に書かれている内容について線を引きながら読む。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示するなどして、それぞれの気づきを共有し、大事な点に関しては押さえる。</p> <p>【指】本文抜き出し機能（マイ黒板）の使い方を確認する。</p> <p>【学】「はじめ」と「終わり」を、本文抜き出し機能（マイ黒板）でカード化して整理する。</p> <p>【学】「いつ、どんなことが起こったか」が分かる部分に線を引いたり書き込んだりしながら読む。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示するなどして、それぞれの気づきを共有し、大事な点に関しては押さえる。</p> <p>【学】「事実」と「推論」に線を引いたり、写真と文を結びつけたりしながら読む。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示するなどして、それぞれの気づきを共有し、大事な点に関しては押さえる。</p> <p>【学】⑤までの学習をもとに、自分の興味・関心を中心にして、本文抜き出し機能（マイ黒板）を使って整理する。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示して、それぞれの整理の仕方を共有し、大事な点に関しては押さえる。</p> <p>【学】「もっと読もう」を確認する。</p>
<p>第三次 広げる</p>	<p>⑨ 興味をもったことを中心にして書いた紹介文を互いに読み合い、興味を広げる。</p>	

## 5 本時について

### (1) 本時の目標

これまでの学習をもとに、自分の興味・関心を中心にキーワードやキーセンテンスを抜き出しカード化し、整理しながら読みを深め、要約文を書くことができる。

### (2) 本時の展開

時間	学習内容	指導の留意点
2分	1 前時を振り返り本時の学習のめあてをつかむ。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自分の興味・関心を中心にキーワードやキーセンテンスを抜き出し、カード化して整理し、要約文（250字程度）を書こう。                 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を要約するときには、その段落を少し詳しくまとめるための視点の確認 黄色線を引いた箇所</li> <li>・③でやったマイ黒板の使い方の確認 青線や緑線を引いて読み取ったこと ↓ マイ黒板に抜き出してカード化 ↓ 整理して配置</li> <li>・「学びのプロセス」の確認 1時間目：個の学び①（10分）→ペアの学び（10分）→全体の学び（10分）→個の学び②（13分） 2時間目：ペア（10分）→全体（7分）→個の学び③（8分）→個の学び④（18分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①②をもとに、「ウナギの産卵場所の調査」「調査にかかった年月や苦労」「謎がだんだんに解けていく経緯」に関することに興味・関心をもっているか、確認をする。興味・関心の同じ児童でペアを組ませる。</li> <li>●p 96 下段「整理の例」を参考に、マイ黒板にキーセンテンスを抜き出すことで、要約文を書きやすくなることを提案する。</li> <li>●個の学びとペア、全体の学びを積み重ねて自分の考えをまとめられることが大事であることを伝える。</li> </ul>
10分	2 (個①) マイ黒板に、前時までに引いた青線や緑線を参考にしながら、キーセンテンスを抜き出しカード化し、配置を工夫する。 ・自分の興味・関心に沿って、キーワードやキーセンテンスを抜き出し、整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なかなかカード化できない児童に対しては、まずは前時までの学習で見つけた文章をどんどん抜き出すことを始めようと声をかけたり、何を中心にして紹介したいのかを黄色線をもとに再度確認したりする。</li> <li>●この時点では、あまり文章を抜き出せなかったり、長文で抜き出したりしている児童が多いと予測される。ペア学習や全体での学習を通して、読みが焦点化されていくように協働的に学んでいくことが大事であることを再度伝える。</li> <li>●個の学びの時間に、それぞれの考えの</li> </ul>

10分	<p><b>3 (ペア)</b> 互いの読み取りに関して、マイ黒板を見せ合い、比較しながら話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアの友達の考えと共通するところはあるか 抜き出したキーセンテンス、配置のしかた 小見出し</li> <li>・自分の考えと差異があった場合には、友達の考え方をしっかり聞き取り、どちらがより要点を捉えているか考える</li> <li>・友だちの考え方の良さを取り入れる</li> </ul>	<p>違いをチェックして、ペアの学びの際に支援する必要があるか、想定しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ペア学習では、まず、「互いの画面を見せ合う→共通点や相違点があるかを確認する→相違点について考えを交流する」という学び方を確認する。相違点について話し合うときには、カードの内容を提示しながら説明するように指示する。</li> <li>●一人でずっと話しているということがないように、キャッチボールの対話を心がけるように声かけする。</li> <li>●友達の話を聞いて納得したら、取り入れたり、画面を修正したりしてもよいが、修正に時間をかけてしまうペアがあったときには、全体の話し合いの後に修正する時間があることを声かけする。</li> <li>●なるべく短い言葉や文で抜き出している、抜き出したカードの近くに手書きや入力で「小見出し」をつけたり説明を書いたりしている児童を取り上げ、共有する。</li> <li>●全体で取り上げる児童を決めておく。どの児童が「ウナギの産卵場所の調査」「調査にかかった年月や苦労」「謎がだんだんに解けていく経緯」に関することに興味・関心をもっているか、事前に把握しておいたことを元に指名等を考えておく。</li> </ul>
10分	<p><b>4 (全体)</b> マイ黒板のカードの文章や配置を見ながら、筆者の主張について全体で確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウナギの産卵場所の調査」を中心に紹介したい時には、事実と考察を重ねて、やっと産卵場所を発見したことが伝わるように抜き出す</li> <li>・「調査にかかった年月や苦労」を伝えるためには、それが分かるように年や年数を抜き出す</li> <li>・「調査にかかった年月や苦労」を伝えるためには、それが分かるように年や年数を抜き出す</li> <li>・文を短くする方法や整理の仕方の確認 文章をまとめる、他の言葉に言い換える カードの配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級の実態に応じて、児童の画面を取り上げて共有する。興味・関心に応じて抜き出す箇所の違いへの気づき、要約するための文を短くする方法等、学びを深めていけるように助言する。</li> </ul> <p>特に、マイ黒板の整理の方法について、まだ慣れていない学級では、これまでのワークシートの経験から、枠を作ってカードを並べる児童が多くなることが予想される。そのような学級では、多様な整理の仕方があることを確認すると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の視点を聞いて、様々な視点で教材文を読むことができることに気づく。</li> </ul>
13分	<p><b>5 (個②)</b> ペアや全体で話し合ったことをもと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ペアや全体での話し合いをもとに、自</li> </ul>

	<p>にマイ黒板で整理しなおす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要約する際の視点の再確認 第一次で引いた黄色線や初発の感想を確認 ↓ 興味・関心の中心は、どの段落かを見つける ↓ 全文を要約するときには、その段落を少し詳しくしてまとめる</li> <li>・より絞った文の抜き出し</li> <li>・より短い文にする工夫</li> <li>・カードの配置の見直し</li> </ul>	<p>分のカードへの抜き出しや配置に関して、再検討するように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●マイ黒板に整理したことをもとに要約文にするため、整理できていない児童に対しては、丁寧に支援していくようにする。</li> <li>●ペアに自分が伝えたいことのあらましを説明できるように、考えておくことを指示する。</li> </ul>
10分	<p><b>6 (ペア)</b> 画面を見せながら、友達と交流し、必要に応じて修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい視点の要約になっているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本時1時間目に示した画面との違いを想起させ、どのように変化したか説明し合うように指示する。その際には、画面を指し示して説明するように指示する。</li> </ul>
7分	<p><b>7 (全体)</b> 友だちの画面を見ながら、様々な見方や考え方、整理の仕方によって伝わり方に違いがあることに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの言葉や文章を使うと内容が要約できるか考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほぼ整理のできている児童の画面を共有するのか、あるいはまだ精査、整理しきれていない児童のものを共有してアドバイスし合うのかは、実態に応じて行うようにする。</li> </ul>
8分	<p><b>8 (個③)</b> 要約文が書けるように、画面を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大体、250字程度の要約文が書けるように、カードの内容を確認</li> <li>・どの言葉や文章を使うと内容が要約できるか考え、接続詞を書き込んだり印をつけたりして、再構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考えをまとめられない児童には、再度、全体での話し合いを確認するよう助言する。</li> <li>●次の活動である「紹介文を書く」ことにつながる学習であるので、全員が要約できるように、丁寧に確認をする必要がある。</li> </ul>
18分	<p><b>9 (個④)</b> 要約文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・250程度に要約した文にまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでのマイ黒板に蓄積してきたカードをもとに、ワークシートにまとめるように指示する。</li> </ul>
2分	<p>次時は、これまでの学びを生かして紹介文を書く。</p>	

### 【評価】

- ・対話を通して、カードの内容が精査されたり、カードが増えたりする。
- ・本文の抜き出しやそのカードの並べ方に、意図が見られる。

・前時より，より自分の視点（「ウナギの産卵場所の調査」「調査にかかった年月や苦勞」「謎がだんだんに解けていく経緯」）で事例を捉え，筆者の主張について 250 字程度で記述している。（ワークシート）